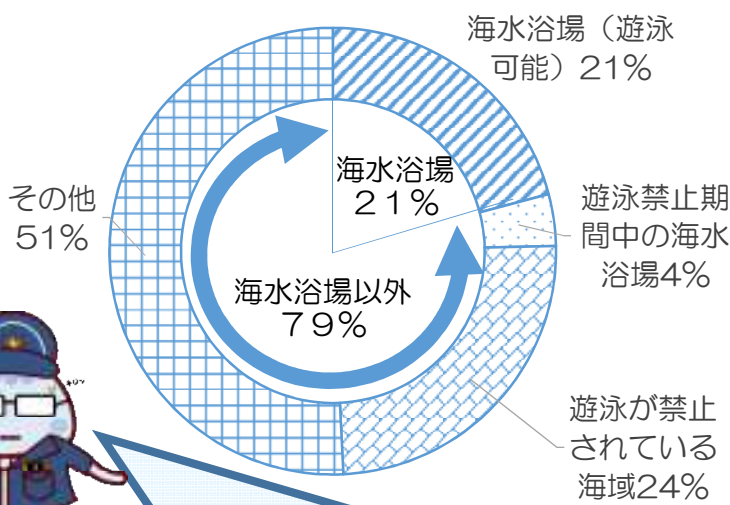


海の事故に注意！

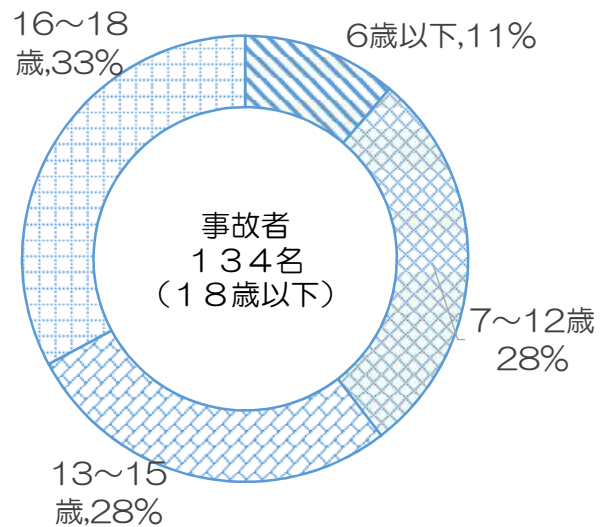
関東海域（茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県）の海浜では、遊泳中の事故が多発しており、その多くは夏休み期間中に発生しています。

過去10年間(2016年～2022年)における18歳以下の事故者は134名で、そのうち29名(22%)の方が亡くなっています。

遊泳場所別割合



年齢別割合



【海浜事故の79%は海水浴場以外で発生しています！】

○若年齢層（18歳以下）による海浜事故の分析

発生状況：約84%が夏休み期間に発生（内訳：7月32名、8月91名）

発生場所：約79%が海水浴場以外の場所で発生（遊泳禁止期間中の海水浴場を含む。）

主な原因：漂流46名（約35%）、波に引き込まれる46名（約35%）、パニック11名（約8%）

※ 事故の約3分の1は、天気の良い日（強風・波浪の注意報・警報発令中）に発生しました。

事故に遭わないために・・・

○離岸流に注意！
事故発生要因の40%は離岸流
によるものです。

監視員がいる海水浴場で泳ぎましょう。

理由1) 海水浴場は、ライフセーバー等の監視が行き届いており、万が一の時の救助体制が整っています。そのため、早期に事故が発見され、迅速な救助が実施されます。

理由2) 海水浴場は、安全に遊泳することができる遊泳区域がブイで定められています。

波が高い日は、泳いではいけません。

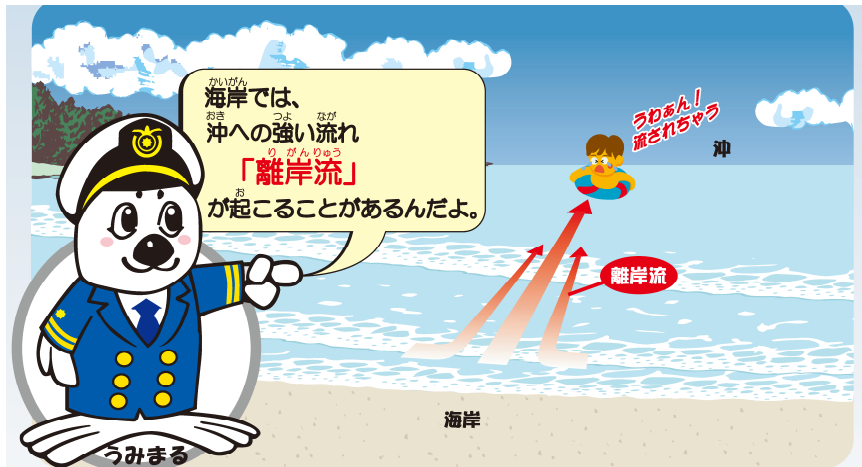
高い波や強い風の影響で、溺れたり沖合いに流される危険性が高くなります。



● 離岸流に注意！！

海水浴場や海岸付近では、岸から沖に向かう流れが発生することがあり、これを「離岸流」と呼んでいます。その速さはオリンピックの競泳選手並みになることもあり、海岸であればどこでも発生する可能性があります。

「離岸流」に遭うと、水際で泳いでいる人が沖へ“あっという間”に流されてしまうことがあります、大変危険です！



沖にながされたときの脱出方法

☆ 「離岸流」からの脱出方法

① 慌てずに、付近の人に救助を求める

② 海岸線と平行に泳いで「離岸流」から抜け出す

「離岸流」の幅はわずか10m～30mといわれています。

そのため、岸に向かって（流れに逆らって）泳がず、海岸線と平行に泳ぐと、無理なく岸へ向けて泳ぐことができます。

